

# 自らの考えを再構築することができる生徒の育成

～目標と思考を可視化し、自らの思考の変化を捉えることができる活動を通して～

## I 主題設定の理由

平成29年に改定された学習指導要領の中で、学習の基盤となる資質・能力の一つに言語能力が明記された。言語能力を育成するためには、全ての教科等においてそれぞれの特質に応じた言語活動の充実を図ることが必要である。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善においても、各教科において言語活動の質を向上させることが求められている。

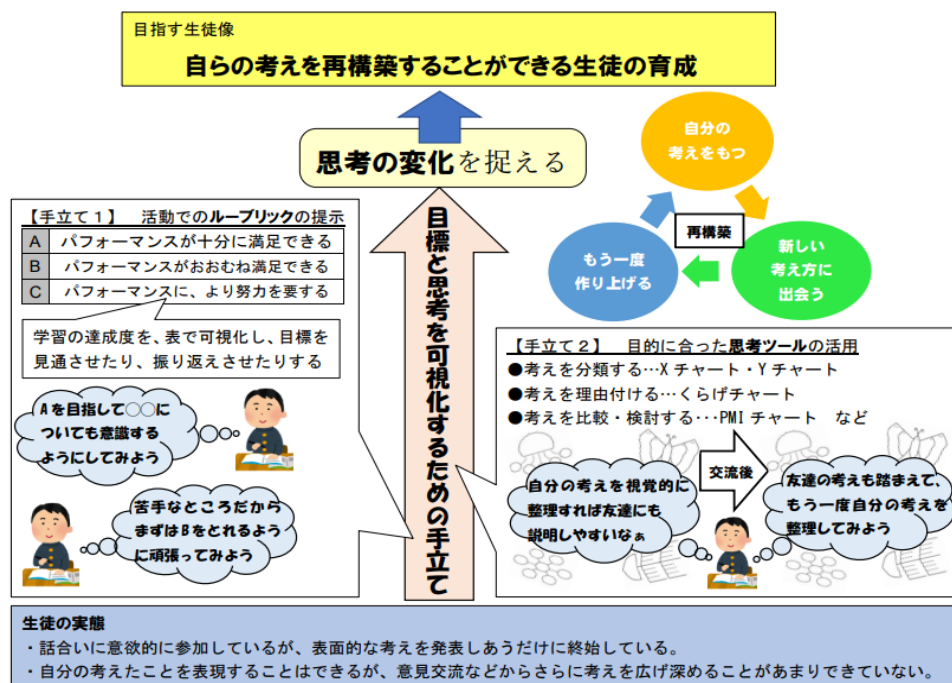
各学校においては、これまでも、学習のねらいに沿って自分の考えを表現させたり、意見交流させたりしながら生徒の言語能力の育成を図ってきた。しかし、意見交流ではそれぞれの考えを伝えるだけに留まり、表面的な考えを発表しあうだけになっていたり、自分で考え表現したことを、そこから広げ深めていくことができている様子が見られたりする場面がしばしば見られる。

これらの課題の解決に向けては、言語能力を構成する資質・能力のうち、特に思考力・判断力・表現力等に関わる力の育成が重要であり、そのためには、ルーブリックや思考ツールの活用が手立てとして有効であると考えた。生徒には、ルーブリックで目指すべき方向を明らかにして学習活動を行わせることや、思考ツールを活用して自分の考えを分類、理由付けさせたり、他者と意見を比較・検討させたりすることで、目標と自らの思考を可視化し、思考の変化の過程をより具体的に捉えさせたい。そして、これらを単元や授業の導入と終末、意見交流の前後などの場面に取り入れることで、言語活動の質が向上し、生徒が自分の考えをより確かなものにし、考えを広げ深めたりすることができるようになると考えた。

以上のことから、目標と思考を可視化し、自らの思考の変化を捉えることができる活動を通して、自らの考えを再構築することができる生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

## II 研究の内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

### 【手立て1】ルーブリックの提示

ルーブリックとは、表を用いて目標を可視化し、学習の到達度を測定する評価方法である。【評価の観点（規準）】と観点の尺度を数段階に分けて文章で記述した【学習の到達度】から構成される。（図1）

	正確さ	内容	構成
説明	おすすめの映画について、自分が使える英語で紹介をすることができるか。語順や話す英語に間違いはないか。	映画に関する基本情報や自分がその映画をおすすめする理由、好きなシーンや登場人物などについて、詳細まで話しているか。	Opening-Body-Closing に沿った文章の構成になっており、それぞれのパートで話すべき内容を整理し、伝えることができるか。
A (3)	受け身の文法を使って文章を書いている。正しい語順で書き、by, to などの使い分けができていて、間違いが少なく、聞き手が内容を理解することができる。	①～④の内、3つ以上の項目について整理し、おすすめの映画について自分の伝えたいことをしっかり話すことができる。	Opening, Body, Closing があり、聞き手が「その映画を観たい」と思うプレゼンにするために、一貫性のある内容を、2年生で習った英語を使って話している。また、相手意識を持ち、相手への質問も含んでいる。
B (2)	受け身の文法を使って文章を書くことができる。受け身の文章の語順が正しい。間違いが複数あり、意味が通らない箇所が2,3カ所ある。	①映画の基本情報 ②映画が好きなる理由 ③お気に入りの〇〇 ④おすすめする決まり文句 の内、2つの項目について話している。	Opening, Body, Closing があり、相手が「その映画を観たい」と思うような文章にするために、文章のまとまりや一貫性を考えて文章を話している。
C (1)	今まで習った文法が使えず、また間違いが多く、意味が通らない。	①～④の内、1つのことについてしか話していない。	Opening, Body, Closing の構成ができていない。

合計点数・・・ A 7～9 Great!      B 4～6 Good!      C ～3 Nice try!

図1 ルーブリック 英語科の例

#### (1) ルーブリックをもとにして学習を見通す

単元の「つかむ」過程や授業の導入でルーブリックを提示し、目指すべき方向性を明らかにする。ルーブリック作成の際は規準に具体的な説明や完成の程度について記述することで、生徒が単元を通した目標や内容について理解し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。また、単元の間や学習活動の中盤でルーブリックの評価について触れることで、生徒が自ら目指すべき姿を明確に意識し、学習に取り組むことができるようにする。

#### (2) ルーブリックをもとにして学習を振り返る

学習活動や振り返りの際に、ルーブリックをもとにして自己評価をする時間を設ける。その際、学習の到達度の確認だけでなく今後の学習にどう生かすかについても考えさせることで、より高い目標の達成に向かって主体的に学ぶことができるようにする。また、生徒同士の相互評価も行うことで、学びの振り返りの客観性を高めることができるようにする。

### 【手立て2】目的に応じた思考ツールの活用

はばたく群馬の指導プランⅡ「総合的な学習の時間」には、「考えるための技法」が例示されている。また、黒上ほか（2012）は、「思考スキルは、考えを進める手続きやそれをイメージさせる図として見せることができると考え、そのような手順や図をシンキングツールと呼んでいる。シンキングツールは、いろいろな方法で『考えること』を助けてくれる。」と述べている。シンキングツールは思考ツールと同様のものであるため、本研究では思考ツールという言葉を用いる。以下の図2は、思考ツールの特徴についてまとめたものである。

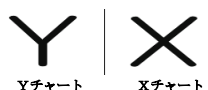



思考スキル	思考ツール	内容
分類する	 Yチャート Xチャート	複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。
構造化する	 フィッシュボーン	考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する。
理由付ける (原因や根拠を見付ける)	 くらげチャート データチャート	対象の理由や原因、根拠を見付けたり、予想したりする。
多面的に見る 多角的に見る	 バタフライチャート フィッシュボーン PMI くまでチャート	対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。

図2 思考スキルの種類と思考ツールの対応

本研究では、以下のように思考ツールを活用し、考えを再構築するための手立てとする。

### (1) 目的に応じた思考ツールを活用して、自分の考えを整理し意見交流する

思考ツールを活用して自らの思考を分類したり、理由付けしたりして考えを整理する。そして思考ツールに書き出したことをもとに、意見交流する。意見交流する際は、交流の視点を与えることで、生徒が目的をもって意見交流を行うことができるようにする。

### (2) 思考の変化を可視化する

意見交流を行ったあと、事前に作成した思考ツールを活用して、友達の意見や新たな考えたことなどを書き込ませる。この手立てによって生徒が思考を整理するだけでなく、新たな考えに出会ったことによる思考の変化を捉えることができるようにする。

## Ⅲ 成果と課題

### 1 成果

#### 【手立て1】

- ループリックによる評価規準の提示により、目指すべき姿が明確になり、学習の見通しをもたせることができた。（図3）

学習の到達度をA～Cの3段階にして示したことで、より上の評価を目指そうと試行錯誤し、学習を調整する生徒の姿が多く見られた。このことから、ループリックによる評価の観点と学習の到達度の提示、共有は生徒の主体的な学びを引き出すことに有効であることが分かった。



図3 ループリック提示の場面

- 単元や授業の導入場面に限らず、学習活動の中盤の相互評価の場面でループリックを活用したことで、生徒が学習活動の目的を意識しながら自らの考えを再構築することができていた。また、振り返りの場面でもループリックを提示したことで、授業や単元を通じた自身の学びを振り返らせ変容を感じさせることができた。

### 【手立て2】

- ・思考ツールを活用することで、生徒に考えさせたい視点を明確化することができた。本研究では、XチャートやPMIチャートを活用することで、生徒に意識させたい視点を明確にして考えることができた。(図4) また、クラゲチャートを活用することで、多面的・多角的に原因や根拠を考えさせたり、それぞれの考えを比較させたりすることができた。



図4 思考ツール Xチャート

- ・思考ツールを用いたことで、自他の考えを視覚的に捉えることができ、意見交流の充実につながった。思考ツールの活用は、個人で考える場面では、考えを整理・分類したりアイデアを広げたりすることに有効であり、友達との意見交流の場面では、自分にはない考えを補完したり、新たな考えにふれることで考えを広げ深めたりすることに有効であった。

## 2 課題

### 【手立て1】

- ・ルーブリックを提示後に、どのようにしたらB評価がA評価になるかなど、生徒へのより具体的な手立ての工夫が必要であった。(ヒントカード、資料の提示、巡視での助言の仕方、生徒の実態の把握、到達度の違いを強調する等)
- ・ルーブリックでの評価規準が長くなってしまったり、難しい表現になってしまったりしたので、生徒にとって分かりやすく、生徒自身がチェックしやすいものにする必要があった。

### 【手立て2】

- ・思考ツールを教師から与えるだけでなく、今後も様々な思考ツールを継続して活用していくことで、それぞれの思考ツールの利点や有用性に生徒が自ら気づき、生徒が自分で目的に応じた思考ツールを選択できるような支援を考えていきたい。
- ・思考ツールが、考えるための手段ではなく、学習の目的になってしまう場面があった。思考ツールに自分の考えを書いたあとに、それをもとに自分の考え再構築させるためには、意見交流の際の視点の与え方や、教師の発問の工夫が必要である。

#### IV 研究の実践

実践例1 2年 英語

沼田市立池田中学校 教諭 岡田 莉奈

#### 1. 単元名 Work Experience (PROGRAM 5 Sunshine English Course 2)

#### 2. 単元の目標

疑問詞 + to不定詞の意味や使用場面、[主語 + 動詞 + 目的語 + 名詞] の文構造について理解した上で、インタビュー活動を通して深めた考えを基に、行ってみたい職場体験先とそこで学ぶことができることについて内容や構成を工夫しながら、パンフレットを作成することができる。

#### 3. 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①疑問詞 + to不定詞の用法や[主語 + 動詞 + 目的語 + 名詞]の文構造についてその意味や働きを理解している。 ②自分が職場体験で学べることを疑問詞+to不定詞の文法や[主語 + 動詞 + 目的語 + 名詞]の文構造を用いて書く技能を身に付けている。	①教科書の会話文やスピーチを読み、教科書内の人物が職場体験で学んだことに関して理解を深めている。 ②外国の生徒に自分が職場体験を行いたい場所やそこで学ぶことができることを整理し、簡単な語句や文を用いて相手に分かりやすく紹介することができる。〔書くこと〕	①教科書の会話文やスピーチを読み、教科書内の人物が職場体験で学んだことに関して理解を深めようとしている。 ②職場体験に関する自身の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて相手に分かりやすく紹介しようとしている。〔書くこと〕

#### 4. 指導と評価の計画 (全11時間 本時は5時間目) ◎は指導に生かす評価 ●は評価に用いる評価

過程	時間	ねらい	評価	評価の観点(方法)
つかむ	1	本単元の学習に見通しをもち、目指すべき姿を示すルーブリックの規準について考えた上で、モデルを参考にしながら職場体験に関する思いを既習の知識を用いながら書こうとしている。	◎	態② (観察・ワークシート)
	<b>【単元の課題】</b> 読み手に “I want to go there for work experience.” と思わせるパンフレットにするにはどんな情報や工夫が必要か。			
追究する	2	<疑問詞+to不定詞>の意味や用法について理解し、「いつ～すべきか」「何を～すべきか」について伝え合うことができる。	●	知① (観察・ワークシート)
	3	人やものの様子や状態について表現することができる。	●	知① (観察・ワークシート)
	4	[主語 + 動詞 + 目的語 + 名詞] の文構造について理解することができる。	●	知① (観察・ワークシート)
	5 本時	職場体験を行いたい場所とそこで学べることについて、相手が興味をもち、理解しやすい表現について、読み手の立場に立って考え、紹介する内容や構成を工夫している。	●	思② 態② 〔思考ツール〕 〔ワークシート〕



6 8	教科書本文の内容理解を通して、教科書の登場人物が職場体験で学んだことについて理解することができる。	◎	思① 態① (観察・ワークシート)
	教科書の内容について、簡単な語句や文を用いて概要を話すことができる。	●	思① 態① (観察・録音データ)
まとめ	10 これまでに学習した内容やインタビュー活動を通して考えたことを整理し、友達との紹介活動を通して、職場体験で学びたいことを英語で紹介する際のよりよい表現方法に気付き、自己の表現を改善することができる。	●	知② 思② (観察・ワークシート)
	11 フィードバックや自身のこれまでの学習をもとに、新出言語材料を適切に用いながら職場体験で学びたいことについてまとめたパンフレットを書くことができる。	●	思② 態② (観察・ワークシート)


## 5. 授業の実際

### (1) 本時のねらい

職場体験を行いたい場所とそこで学べることについて、相手が興味をもち、理解しやすい表現について、読み手の立場に立って考え、紹介する内容や構成を工夫している。

### (2) 準備 教科書、ワークシート、ICT端末

### (3) 展開 ※本研究の手立てに関する箇所をゴシック体で表記する

主な学習活動	時間	指導上の留意点及び支援																				
<p>1. 本時の学習課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の子どもたちによる夢の職場体験の紹介と単元の導入の時間に記述した文章を読み、ループリックを用いて評価をする。</li> </ul>	つかむ(10)	<p>○モデルとなる紹介文を読み、ループリックの項目に沿って評価を行わせることで、紹介活動を行う際の留意点を客観的に認識し、よりよい表現方法について考えることができるようにした。【手立て1】(図5)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 30%;">正確で</th> <th style="width: 30%;">内容</th> <th style="width: 30%;">構成</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>説明</td> <td>夢の職場体験について、自分が使える英語で紹介することができるか。語順やスペルに間違いはないか。</td> <td>自分の意見や予想をもとに、なぜそこで職場体験してみたいのか、どんなことが学べそうか、といった内容を明確に書いているか</td> <td>Opening, Body, Closing に沿った文章の構成になっており、それぞれのパートで書くべき内容を明確に整理しながら書いているか。</td> </tr> <tr> <td>A (3)</td> <td>間違いが少なく、読み手が内容を理解することができる。</td> <td>①~④の内、3つ以上の項目について書き、夢の職場体験について自分の伝えたいことをしっかり書くことができる。</td> <td>Opening, Body, Closing があり、読み手が「そこで職場体験をしたい」と思う文章にするために、紹介する順序を考えて身近な英語で文章を書いている。また、相手意識をもち、相手への質問も含んでいる。</td> </tr> <tr> <td>B (2)</td> <td>間違いが複数あり、意味が通らない箇所が2,3カ所ある。</td> <td>①職場体験をしてみたい理由 ②その職場の様子 ③そこで学べること ④自分の変化の内、2つの項目について書いている。</td> <td>Opening, Body, Closing があり、相手が「そこで職場体験をしたい」と思うような文章にするために、紹介する事柄の順序を考えて文章を書いている。</td> </tr> <tr> <td>C (1)</td> <td>間違いが多く、意味が通らない。</td> <td>①~④の内、1つのことについてしか書いていない</td> <td>Opening, Body, Closing の構成ができていない。</td> </tr> </tbody> </table>		正確で	内容	構成	説明	夢の職場体験について、自分が使える英語で紹介することができるか。語順やスペルに間違いはないか。	自分の意見や予想をもとに、なぜそこで職場体験してみたいのか、どんなことが学べそうか、といった内容を明確に書いているか	Opening, Body, Closing に沿った文章の構成になっており、それぞれのパートで書くべき内容を明確に整理しながら書いているか。	A (3)	間違いが少なく、読み手が内容を理解することができる。	①~④の内、3つ以上の項目について書き、夢の職場体験について自分の伝えたいことをしっかり書くことができる。	Opening, Body, Closing があり、読み手が「そこで職場体験をしたい」と思う文章にするために、紹介する順序を考えて身近な英語で文章を書いている。また、相手意識をもち、相手への質問も含んでいる。	B (2)	間違いが複数あり、意味が通らない箇所が2,3カ所ある。	①職場体験をしてみたい理由 ②その職場の様子 ③そこで学べること ④自分の変化の内、2つの項目について書いている。	Opening, Body, Closing があり、相手が「そこで職場体験をしたい」と思うような文章にするために、紹介する事柄の順序を考えて文章を書いている。	C (1)	間違いが多く、意味が通らない。	①~④の内、1つのことについてしか書いていない	Opening, Body, Closing の構成ができていない。
	正確で	内容	構成																			
説明	夢の職場体験について、自分が使える英語で紹介することができるか。語順やスペルに間違いはないか。	自分の意見や予想をもとに、なぜそこで職場体験してみたいのか、どんなことが学べそうか、といった内容を明確に書いているか	Opening, Body, Closing に沿った文章の構成になっており、それぞれのパートで書くべき内容を明確に整理しながら書いているか。																			
A (3)	間違いが少なく、読み手が内容を理解することができる。	①~④の内、3つ以上の項目について書き、夢の職場体験について自分の伝えたいことをしっかり書くことができる。	Opening, Body, Closing があり、読み手が「そこで職場体験をしたい」と思う文章にするために、紹介する順序を考えて身近な英語で文章を書いている。また、相手意識をもち、相手への質問も含んでいる。																			
B (2)	間違いが複数あり、意味が通らない箇所が2,3カ所ある。	①職場体験をしてみたい理由 ②その職場の様子 ③そこで学べること ④自分の変化の内、2つの項目について書いている。	Opening, Body, Closing があり、相手が「そこで職場体験をしたい」と思うような文章にするために、紹介する事柄の順序を考えて文章を書いている。																			
C (1)	間違いが多く、意味が通らない。	①~④の内、1つのことについてしか書いていない	Opening, Body, Closing の構成ができていない。																			
<p>図5 ループリックを見ながら評価について話し合う様子</p> 		<p>モデルとなる文章と自分が試しの活動で書いた文章を評価し、比較したことで、本時の学習の見通しをもつことができた。</p>																				
<p><b>【課題】</b> 読み手に “I want to go there for work experience.” と思わせるにはどのような内容や表現で紹介するとよいか考えよう。</p>																						

<p>2. 職場体験で学びたいことについて考え、やりとりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Xチャートを用いて職場体験に関する自分の思いを話す準備をする。</li> </ul>		<p>○ Xチャートに相手に伝える内容を分類する時間を設けることで、学習活動1で得た情報を精査し、自分の発表に取り入れることができるようにした。【手立て2】(図6)</p>
<p>図6 Xチャートの情報を整理する様子</p>	<p>追究する (35)</p>	<p>ループリックによる評価を受けて、自分の英文をよりよくするためにどの部分について情報を付け足す必要があるかを考えながらXチャートにカードを付け足すことができていた。</p> <p>必要に応じて接続詞カードや発表の際に有効な表現を追加するよう指示し、内容を深めようとする様子が見られた。</p> <p>○ ペアになり、インタビュー形式で職場体験に関する紹介活動に取り組みせ、ループリックを用いた評価に沿ってフィードバックさせることで、自分の課題を把握し、改善しようとする意欲的に学習することができるようにした。【手立て1】【手立て2】(図7)</p>
<p>図7 やり取りをし、ループリックをもとにフィードバックする様子</p>		<p>Xチャートを見て、話す内容を整理しながらやり取りをすることができていた。</p> <p>ループリックを見ながら、アドバイスしあう様子が見られた。</p> <p>○ 友達のよいな、と思った表現や伝え方についてはメモをするように指示することで、友達の考えを活用し、伝える順序や内容について考えを再構築することができるようにした。</p> <p>○ 記述した英作文はロイロノートの提出箱に提出するように指示することで、他の生徒の記述を見たり、単元の最後で学習後の変容を見取ったりできるようにした。</p>
<p>3. 夢の職場体験について英作文にまとめる。</p> <p>4. 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Self-assessment sheetに本時のまとめと振り返りを書く。</li> </ul>	<p>まとめる (5)</p>	<p>○ 振り返りの際のキーワードを示し、学びの連続性を感じられるようにした。 【振り返りの視点】 &lt;拡大&gt; ~してみたい。 &lt;比較&gt; Aさんの発表を聞いて~。</p>

【評価項目】(思考・判断・表現/主体的に学習に取り組む態度) ○おおむね満足  
○職場体験に関する紹介が読み手にとって興味深く、理解しやすいものになるように、内容や表現、構成を工夫している。(観察・思考ツール・ワークシート)

## 6. 成果と課題

### (1) 成果

#### 【手立て1】

- 導入時にルーブリックを用いてモデル文を評価させることで、どんな表現や構成で記述していればA評価を取れるのかを意識して学習に取り組むことができた。

No.	Goal	読み手に"I want to go there for work experience."と思わせるには、どのような内容や表現で紹介するとよいか考えよう
5	Date	Tuesday October eleventh
	Check	This work experience, will give me some hints.
	Comments	自分の話や相手の話をきいて、直した方がいっしょに相手のよったがきかた Xチャートを基に、夢の職場体験先について話し合い、互いに表現を伝え合うことができた。ルーブリックを基に教え合うことができた。
self assessment	Sharing	自分の紹介したいことを整理したり、友達からよい表現を得たりして自分の考えをまとめ、内容や構成について考えながら書くことができた。
	Writing	自分の紹介したいことを整理したり、友達からよい表現を得たりして自分の考えをまとめ、内容や構成について考えながら書くことができた。

図8 第5時終了後の生徒の振り返り

- 単元の導入の際に試しの活動で書いた英文を評価させることで、生徒の学習意欲を高めさせ、本時の学習課題に関する見通しをもたせることができた。
- ルーブリックを基にしてペアでアドバイスをさせたことで、よりよい表現にするために必要なことを意識付けることができた。

#### 【手立て2】


- Xチャートは生徒自ら情報を整理して分類するのに有効であった。各項目に関する質問事項をXチャート上に掲載したことで、その質問に答えて情報を分類しながら思考やアイデアを広げることができていた。
- 単元を通してXチャートに情報を書き込ませ、必要に応じて接続詞やキーワードに関するカードを付け足すよう指示したり、友達の意見を取り入れたものはカードの色を変えるよう指示したりしたことで、生徒が毎時思考の変化を捉えることができた。

<第1時 試しの活動>

I want to go to 保育園. Because I like children, and I can play the piano.

<第5時 Xチャートを用いたやり取り後のWriting>

Hello! I want to go nursery school.  
Because like children. Do you like children?  
and I can play the piano. Can you play the piano?  
If I go and work there, I think I can play the piano better.  
Nursery school look happy, and  
Nursery school teachers looks kind  
I think I can learn how to talk with children  
and how to communicate with children.



<第10時 フィッシュボーンに変換後のWriting>

I want to go nursery school.  
Because I like children. They are so cute.  
And I can play the piano. Can you play the piano?  
If I go and work there, I think I can play the piano better.  
Nursery school look happy, and Nursery school teachers look kind.  
I think I can learn how to talk with children and how to communicate with children. I want to teach sing.  
I think, I like children more.  
So, I want to go to nursery school!




図9 活用した思考ツールと生徒のWritingの変容



## (2) 課題

### 【手立て1】

- 単元を通した目標について示したルーブリックの内容が「書くこと」に関するものとなっており、本時で評価しあう「話すこと（やり取り）」とでは評価規準や観点にずれが生じていた。そのため、単元を通したルーブリックと本時のねらいに沿ったルーブリックに整合性があるかを検証し、必要に応じて本時のねらいに迫ったルーブリックを作成し、提示する必要がある。
- ルーブリックを基にA～Cに関して評価をすることができていたが、具体的な項目については伝え合うことができていなかった。ワークシートに各項目を記載し、生徒が達成できているかどうかをチェックしながら教え合いができるようにするなど、ルーブリックの提示以外にも生徒の実態に合わせた手立てについても考える必要がある。

正確さ	A	B	A
内容	B How will you change の所がもう少し書き足して 良い	B	B

図10 本時で用いたルーブリック評価表

正確さ	意味が通らない部分 なし 総合評価 ④・B・C
内容(理由)	<input checked="" type="checkbox"/> 職場体験をしてみたい理由 料理するのが大好きだから。
	<input type="checkbox"/> その職場の様子
	<input checked="" type="checkbox"/> そこで学べること いっぱいな料理の作り方 <input type="checkbox"/> 自分の変化
総合評価	A・④・C
構成	<input checked="" type="checkbox"/> Opening-Body-Closing しっかり分けられている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 紹介することの順序 ちゃんと書き分けている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 身近な英語で文章を書いている から分かりやすい。
総合評価	④・B・C

図11 改善後の評価表（単元終末で使用）

### 【手立て2】

- 今回、「分類する」「構造化する」といった思考スキルに合わせてXチャートとフィッシュボーンを活用した。フィッシュボーンについてはこれまでも英語科で活用をしていたが、Xチャートについては初めて使用したため、生徒への導入方法や定着に課題があった。導入する際に意図的に提示をしたが、生徒によっては自分自身で思考を整理し、表現することができる場合がある。実際、Xチャートを用いた際に英作文の構成を考えることが難しかった生徒が、フィッシュボーンに変換したことで考えを深めることができていた。そのため、授業のねらいや単元の課題に迫るために必要な思考ツールの見極めも必要であるが、それに加えて個々の生徒がどれだけ思考ツールを活用できるか、どの思考ツールであるとどの生徒が考えを深められるかを考え、生徒に思考ツールを選択させることも必要であると考え。

1. 単元名 第3部 日本のさまざまな地域 第3章 日本の諸地域 第5節 関東地方

2. 単元の目標

関東地方について、地域の広がりや地域内の結び付きや人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、関東地方の地域的特色や課題について理解できるようにする。

3. 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①関東地方について、その地域的特色や地域の課題を理解することができる。 ②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題や地域の魅力を理解することができる。	① 関東地方において、人口や都市・村落を中核にした事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付け、関東地方の特色を多面的・多角的に考察し、表現することができる。	①関東地方について、国家及び社会の担い手としてよりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題やその対応を含めた地域の特色を主体的に追究しようとしている。

4. 指導と評価の計画（7／8時間目）

◎は指導に生かす評価 ●は評定に用いる評価

過程	時間	ねらい	評価	評価観点(方法)
つかむ	1	関東地方の地形や自然環境の特色を理解することができる。	●	知① (発表・ワークシート)
		【単元の課題】 埼玉県は南関東、北関東のどちらに分類されるのだろうか。		
追究する	2	日本の首都、東京について関心をもち、東京のもつ役割や周辺地域に与える影響について調べようとしている。	●	態① (観察)
	3	東京大都市圏の人口分布や街作りの特色と、人口集中による課題を理解することができる。	●	知② (発表・ワークシート)
	4	過疎地域の特色や人口減少による課題について理解することができる。	◎	知② (発表・ワークシート)
	5	関東地方の工業を資料をもとに考察し、埼玉県はどちらの工業地域の特色により近いのか、自分の考えを表現することができる。	◎	思① (発表・ワークシート)
	6	関東地方の農業を資料をもとに考察し、埼玉県はどちらの農業の特色により近いのか、自分の考えを表現することができる。	◎	思① (発表・ワークシート)
	7	関東地方について、埼玉県が南関東と北関東のどちらに分類されるか、人口や都市の分布、工業、農業の特色などを根	●	思① (パフォーマンス課題)

まとめる	本時	拠にして自分なりの考えをもち、発表することを通して、埼玉県を中心とした関東地方の地域的特色を多面的・多角的に考察することができる。		
	8	関東地方全般の地域的特色を多面的・多角的に考察することができる。	●	思① (発表・ワークシート)

## 5. 授業の実際

### (1) 本時のねらい

関東地方について、埼玉県が南関東と北関東のどちらに分類されるか、人口や都市の分布、工業、農業の特色などを根拠にして自分なりの考えをもち、発表することを通して、関東地方の地域的特色を多面的・多角的に考察することができる。

### (2) 準備

<教師> 教科書、ワークシート、大型モニター、ICT端末

<生徒> 教科書、地図帳、資料集、ICT端末

### (3) 展開

※本研究の手立てに関する箇所をゴシック体で表記する

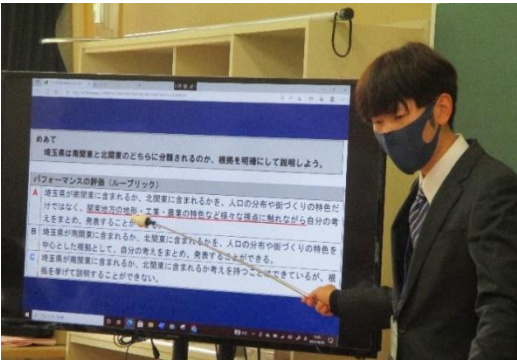
主な学習活動	時間	指導上の留意点及び支援
1. 関東地方に関する基礎知識の確認をする。 2. スプレッドシートで本時の学習のめあてを確認する。	5分	○ロイロノートのテスト機能を使うことで、基礎知識の定着度を確認できるようにした。 ○前時までの学習の自己の振り返りを見ることで、埼玉県に対する自分のなりの考えを再確認した。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             めあて              埼玉県は南関東と北関東のどちらに分類されるのか、根拠を明確にして説明しよう。           </div>		
3. ワークシートを配付し、ルーブリックを確認する。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             何ができればルーブリックでB評価となるか、さらにA評価をとるためには何が求められるか、活動前にルーブリックの評価の違いを生徒と確認し、活動への見通しを持たせることができた。           </div>	10分	○埼玉県が南関東か北関東か明確な基準はなく、根拠を示しながら自分なりの考えをもつことが大切だということを伝えることで、活動への抵抗感をなくすようにした。  
4. くらげチャートに自分の考えをまとめる。		○これまでの学習を振り返り、人口や都市の分布、農業や工業の特色など様々な面から総合的に判断するよう伝えることで、課題について多面的・多角的な見方ができるようにした。

図12 活動前にルーブリックを提示

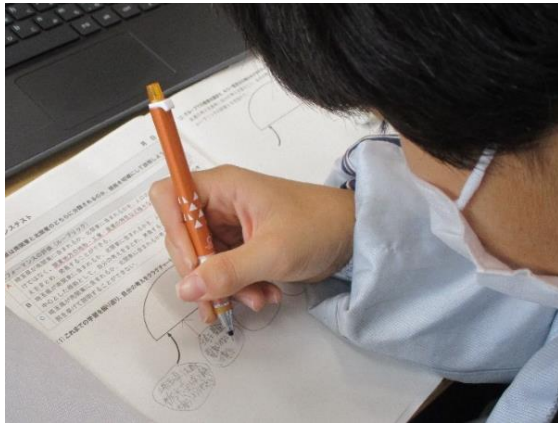


図13 前時までの資料をもとに自分の考えをくらげチャートにまとめる場面

5. 3～4人の班を作り、くらげチャートを見せながら、同じ班のメンバーに自分の考えを説明する。



図14 作成したくらげチャートをもとに自分の考えを交流する場面

6. 友達の考えを踏まえ、もう一度くらげチャートに自分なりの考えをまとめる。

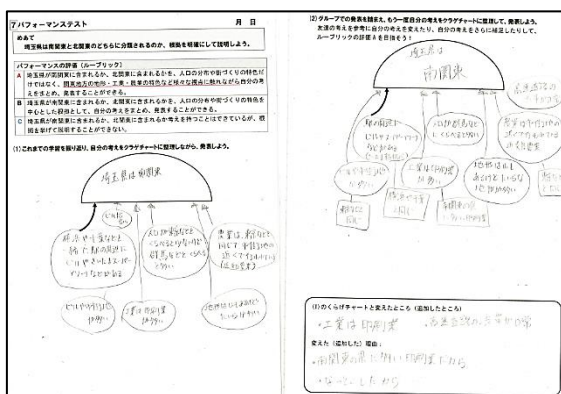


図15 再構築後のくらげチャート（右側）

7. くらげチャートを撮って、ロイロートで全体に送り、全員の意見を全体で共有する。

再構築のベースとなる、自分の考えをくらげチャートで整理した。くらげチャートの足の大きさや数を柔軟に変更できるように、手書きでの作成としたので、自分で足を書き加えながら、考えをまとめることができていた。

15分

- できるだけ結論がバラバラになるようにグループを意図的に分けることで、多面的・多角的な考えに触れられるようにした。
- 自分と同じ結論であっても、友達が自分とは違う視点から考えているところに着目させることで、再構築の際に自分の考えを改めたり、補足したりできるようにした。

再構築のきっかけとなる、新しい考えに出会うためにグループで交流活動を行った。考えの発表だけで終わることがないように、何の資料を根拠にそのように考えたのか等の質問も織り交ぜたことで、交流が活性化した。

20分

- 必ずしも結論を変えなくてもよいが、なぜ、そのように考えたか、改めてしっかり説明できるようにすることが大切であると伝えることで、交流を通して考えの深まりを実感し、自分の意見に確信がもてるようにした。

再構築の肝である、一度自分で作ったくらげチャートをベースに友達との交流を踏まえ、もう一度くらげチャートに自分の考えを整理した。また、考えの変化を明確化するために、交流を踏まえて考えを追加したところと、追加した理由も記入させたことで、考えを深め、再構築することができた。



まとめ（ルーブリックのA評価相当）

埼玉県は南関東である。理由は以下の通りである。

東京都への通勤・通学している人の割合が高く、昼間人口が極端に少なくなるなど南関東特有の人口の変化が見られるから。

JRをはじめ、東武鉄道、西武鉄道などの私鉄路線が張り巡らされており、駅前にマンションが建ち並ぶなど鉄道を中心とした街作りがされているから。

埼玉県は北関東である。理由は以下の通りである。

夏は酷暑で夕立が多く発生する、冬は降水量が少なく乾燥するなどの北関東の他の県と同じような気候が見られるから。

他の北関東の県と同じように、高速道路沿いに自動車をはじめとした輸送用機械の工場が数多く立地しているから。

8. 振り返りをスプレッドシートに入力する。

○スプレッドシートに友達との交流についての振り返りの視点を明記することで、交流を踏まえた意見の深まりについて振り返られるようにした。

時間	第4時	第5時	第6時	第7時
単元をつらぬく学習課題	埼玉県は南関東・北関東のどちらに含まれるか、根拠を明確にして説明しよう。			
本時のめあて	都市部から離れた地域では、どのような課題に直面し、どのような取組をしているのだろうか	関東地方の工業には、どのような特色があるのだろうか。	関東地方の農業には、どのような特色があるのだろうか。	【テ】埼玉県は南関東・北関東のどちらに含まれるか、自分の考えを発表しよう。
振り返りの視点	埼玉県の遠郊地域の現状から考えると、南関東・北関東のどちらに分類されるか	埼玉県の工業の特色から考えると、南関東・北関東のどちらに分類されるか	埼玉県の農業の特色から考えると、南関東・北関東のどちらに分類されるか	これまでの学習の振り返り、友達の発表をもとに、自分の考えをより深められたか
生徒A	北関東 今回の授業では僕は埼玉県は北関東だと判断した。理由は観光地が豊富で、その周辺の地域が整備されている群馬県に似ているから。遠郊地域にも遠郊地にもデパートがあるんだなと思いました。これからの日本の大きな課題だなと思いました。	北関東 今回の授業では、僕は新潟と判断して北関東だと思いました。理由は埼玉県は高速道路が発達している車のせいさんがさかんだからです。	南関東 僕は今回の授業では新潟と違うけれど埼玉は南関東だと思います。理由は埼玉の野菜を主産しているところが山より都市部の近くだと思ったからです。	南関東 自分は最終的に埼玉県は南関東だと思います。友達との交流の時に僕は自分が考えていなかったことや、どうしてそう考えたのかという疑問がわいてきたので良かったです。自分も思ったこと、友達の発表をもとに、自分の考えをより深められたか。
生徒B	南関東 さいたま市は少ないところもあるけど無刺の神奈川も人口が少ないところがあるから	北関東 埼玉県は高速道路を使った工業が多いから	南関東 南関東だと思います。近郊農業をやっているから	南関東 理由は埼玉は政令指定都市だし電車の本数が多く東京と電車が繋がっているからです。友達の発表を聞いて埼玉は山が多いので地味が高いのなと思いました
生徒C	北関東 北関東だと思う。理由は遠郊化が深刻化していて、北関東である群馬県と似たような環境にあるから。	北関東 北関東だと思う。理由は、群馬県から離れていて高速道路を使った工業が盛んになっているから。	南関東 南関東だと思う。理由は、都市に近くて近郊農業が盛んで、どちらかというと、南関東の環境を主とした農業をやっているから。	南関東 最終的に南関東だと思う。理由は、工業や農業、人口の分布などで南関東と似ているところがあったから。また、友達の発表を聞いて自分では考えられなかった視点で判断していたのでとても勉強になった。

各時間で振り返りの視点が明確になっていたので、内容がずれずしっかりと振り返ることができた。単元を通して継続したことで、自分の思考の変化を捉えることができた。

図16 スプレッドシートの入力画面

【評価項目】（思考・判断・表現） ○おおむね満足

○関東地方について、埼玉県が南関東と北関東のどちらに分類されるか、人口や都市の分布、工業、農業の特色などを根拠にして自分なりの考えをもち、発表することを通して、関東地方の地域的特色を多面的・多角的に考察している。（パフォーマンス課題）

6. 成果と課題

(1) 成果

【手立て1】

- ・学習の導入部でルーブリックを示すことで、本時のめあてとの相乗効果で学習活動により明確な見通しを持たせることができた。
- ・ルーブリックに生徒に考えさせたい視点を明記することで、自分の考えをもつ際に生徒が多面的・多角的な見方で自分の考えをもつことができた。
- ・ルーブリックの評価をA～Cのランクに分けることで、自分の考えをよりよくしようと試行錯誤

する姿が見られ、より上の評価を目指そうとする動機付けに有効であった。

- ・「ループリックを目標にして、よりより自分の考えをまとめることができましたか。」の質問に100%の生徒が「よくできた」と回答した。

## 【手立て2】

- ・思考ツールを活用することで自分の考えを端的に整理することができ、自分の考えを伝える場面では思考ツールに書いたキーワードをもとに、自分なりに言葉を補完しながら説明することができていた。
- ・再構築に同じ思考ツールを使うことで、自分の思考の変化や新たな気づきを視覚的に捉えることができ、自分の考えの質や量の改善に有効であった。(図17)
- ・「くらげチャートを使うことで、自分の考えを分かりやすく伝えることができましたか。」の質問に92%の生徒が「よくできた」と回答した。

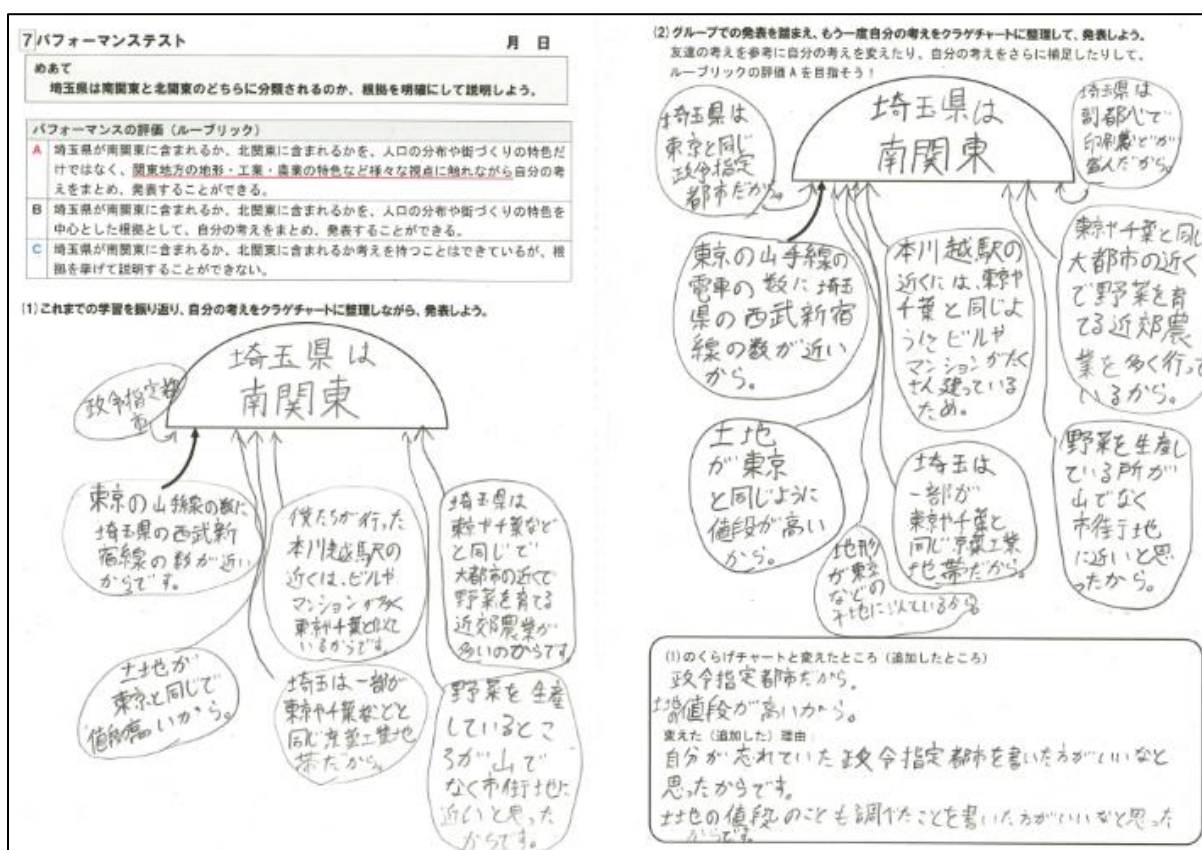


図17 再構築前 (左) と再構築後 (右) のくらげチャート比較を比較すると質や量の深まりが見られた

## (2) 課題

### 【手立て1】

- ・ループリックの評価の規準が文章表記だと分かりづらいため、「〇つの視点から考えよう」などのように、具体的な数字を盛り込むと生徒も理解しやすかったのではないかな。

### 【手立て2】

- ・くらげチャートはあくまで思考を助けるためのツールなので、くらげチャートに自分の考えを書いた後、それをもとにして文章でまとめる活動があってもよかったのではないかな。

1. 単元名 「Program 6 Live Life in True Harmony」

2. 単元の目標

- (1) 受け身の特徴やきまりを理解し、受け身等を用いて伝え合うことができる。【知識・技能】
- (2) スティービー・ワンダーについての説明文等を読んで、概要や要点を捉えることができたり、「My Hero」(私のヒーロー)を作成するために、自分が興味のある人物について、話題の中心を意識し、詳しく、効果的に書いたりすることができる。【思考・判断・表現等】
- (3) 受け身を使った英文や対話文を、自ら進んで要点を聞き取ろうとしたり、スティービー・ワンダーについて、簡単な語句や文などを用いて、相手に概要を話そうとしたりしている。【学びに向かう力、人間性等】

3. 評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①人やもの、イベントについて、<be動詞+過去分詞>の特徴やきまりを理解し、適切に用いて、「されていること」「されたこと」などをほぼ正しい英語で伝え合うことができる。 ② b y を使った受け身とその疑問文などの意味や働きを理解し、やり取りをしている。 ③ b y 以外の前置詞を使った受け身などの意味や働きを理解し、やり取りをしている。	①スティービー・ワンダーについて他の人に伝えるために、彼の信念や曲に関する対話文や説明文を読んで、概要や要点を十分捉えることができる。 ②「My Hero」(私のヒーロー)を作成するために、自分が興味のある人物について話題の中心を意識し、詳しく、効果的に書くことができる。	①身の回りのものが「されていること」「されたこと」などについて理解するために、またクイズなどに答えるために、ALTの話や対話を聞いて、メモをとるなど、自ら進んで要点を聞き取ろうとしている。 ②スティービー・ワンダーについて他の人に伝えるために、彼の曲や信念に関する会話文について、簡単な語句や文などを用いて、写真や絵を見て、相手に示しながら概要を話そうとしている。

4. 指導と評価の計画 (全11時間予定 本時は10時間目) ◎は指導に生かす評価 ●は評定に用いる評価

過程	時間	ねらい	評価	評価の観点(方法)
つかむ	1	自分の興味のある人物について知ってもらうために、話題の中心を意識した紹介文を作成しようとしている。 【単元の課題】 自分の興味のある人物を「My Hero」に、より詳しく、効果的(分かりやすく)に書いて作成し、他学年や先生方に紹介しよう。	●	態①(観察)
	2	写真を見て、「～される」「～された」ことを表現することができる。	◎	知①②(観察)

追究する	3	「されていること」「されたこと」などをほぼ正しい英語で伝え合うことができる。	●	知① (観察、ワークシート)
	4	byを使った受け身とその疑問文などの意味や働きを理解し、やり取りをすることができる。	●	知② (観察、ワークシート)
	5	by以外の前置詞を使った受け身などの意味や働きを理解し、やり取りをすることができる。	●	知③ (観察、ワークシート、振り返りシート)
	6 7 8	スティービー・ワンダーについて書かれた英文を読み、彼の曲に関する対話文の概要や要点を捉えることができる。	●	思① (ワークシート)
	9	スティービー・ワンダーについて他の人に伝えるために、彼の曲や信念に関する会話文について、簡単な語句や文などを用いて、写真や絵を見て、相手に示しながら概要を話そうとしている。	●	態② (観察、ワークシート、振り返りシート)
まとめる	10 本時	自分が興味のある人物について、「Our Hero」(私たちのヒーロー)を作成するために、話題の中心を意識し、〈be動詞＋過去分詞〉(受け身の表現)を活用しながら、詳しく、効果的に書くことができる。	●	思② (観察、ワークシート、振り返りシート)
	11	試しの活動で書いた「My Hero」について、個人で話題の中心を意識しながら文章を書くことができる。	●	思② (観察、ワークシート)

## 5. 授業の実際

### (1) 本時のねらい

自分たちが興味のある人物について「Our Hero」(私たちのヒーロー)を作成するために、話題の中心を意識し、〈be動詞＋過去分詞〉(受け身の表現)を活用しながら、詳しく、効果的に書くことができる。

### (2) 準備

〈教師〉教科書、ワークシート、ICT端末、大型モニター

〈生徒〉教科書、ファイル、ICT端末

### (3) 展開

※本研究の手立てに関する箇所をゴシック体で表記する

主な学習活動	時間	指導上の留意点及び支援
1. あいさつ、帯活動をする。 ・写真を見て、ペアで自由に英語で伝え合う。 (10枚程度) 例: The shark eats the fish. The fish is eaten by the shark.	5	○平叙文、受け身を使った文章のどちらでも表現できる写真を用意することで、受け身を使った文章、使わない文章どちらも表現できるようにした。 ○主語に注目させることで、話題の中心が主語に置かれることを意識できるようにした。





図18 絵を見て文章をペアで伝える活動

導入で、平叙文と受け身の文章を、絵を見て答えることで、本時の文章作成の際の大事なポイントについて押さえることができた。

2. ALT、JTEの興味がある人物についての発表を聞く。  
 ・本時のめあてを確認する。  
 ・ルーブリックを用いて、単元全体における本時の位置付けとめあてを確認する。

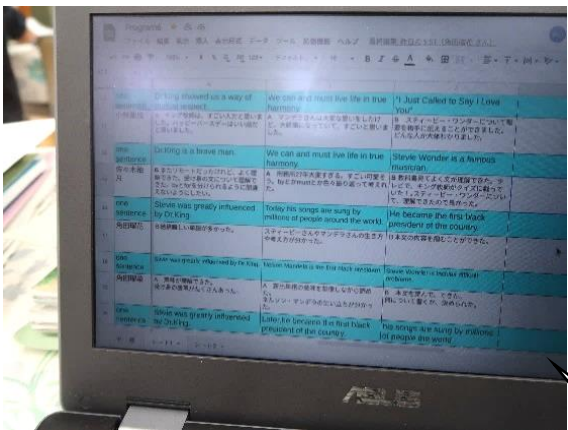


図19 ICT端末で、本時のめあてやルーブリックを確認している様子。

5 ○発表のあとに、原稿を黒板に掲示することで、それぞれの文章の話題の中心を視覚的に捉えることができたようにした。  
 Do you know this person? This is Toriyama Akira. He drew many comics, such as “Doragon Ball” and “Dr. Slump Arare”. Doragon ball is loved by many J anapanese. Also it is known to people a round the world. Goku is a main chara cter. His special move is “Kamehameh a”. It is played by many children. I love “Dragon ball”. So I respect “ T oriyama Akira”. Thank you.  
 「鳥山明→ドラゴンボール→悟空→かめはめは」と話題の中心が変わり、必要に応じて受け身が使われている。

ルーブリックで本時のめあてや目標を確認したことで、本時で身に付けたい内容を明確にし、学習活動に取り組むことができた。

めあて  
 「Our Hero」（私たちのヒーロー）を、話題の中心を意識し、〈be動詞＋過去分詞〉（受け身の表現）を活用しながら、詳しく、効果的に書けるようになる。

3. 3人ずつのペアになり、前時に決めた自分たちが紹介したい人物について文章を作成する。  
 ・個人で考える。(7分)  
 ワークシートに話題の中心を変えながら文章が作成できるようにする。  
 ・グループになって考える。(15分)  
 ①グループでPMIチャートを使い、お互いの文のよさや特徴について意見交流する。(1分×3)

22 ○人物調べはあらかじめ行わせることで、本時はすぐに英文作成に移れるようにした。  
 ○ワークシートには、ICT端末ではなく、手書きで記入させることで、実際に書く力を育成できるようにした。  
 ○3人で、1人の人物について文章を検討させることで、3人それぞれの文章の特徴やアイデアを組み合わせた文章が作成できるようにした。

②意見交流をもとに、グループで「Our Hero

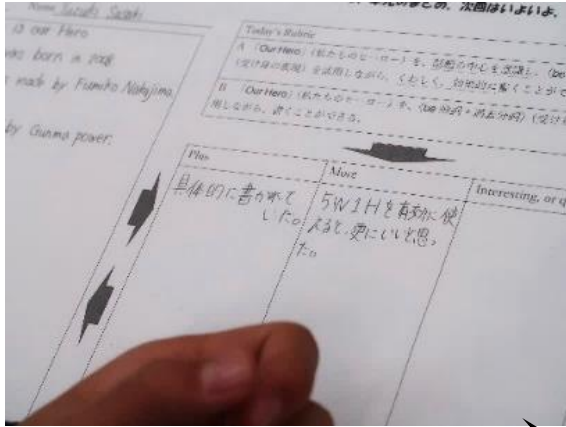


図20 PMIチャートに記入している様子

○PMIチャートを使い、それぞれの文章のよさや特徴について意見交流することで、様々な視点から文章について考え、文章の広がりや深まりを意識して作成できるようにした。

○ルーブリック、思考ツール、ワークシートを往還させたプリントを使用することで、目標と思考を可視化しながら、英文が作成できるようにした。

○最初に作ったワークシートとグループで作成したワークシートを見比べることで、文章がどのように変化したか見ることができるようになった。

PMIチャートに、P(plus)よい点、M(more)さらによくするための点、I(interesting)工夫点を記入することで、視点を明確にした話し合いをすることができた。

4. 作成した原稿をテレビに映しながら発表を行う。

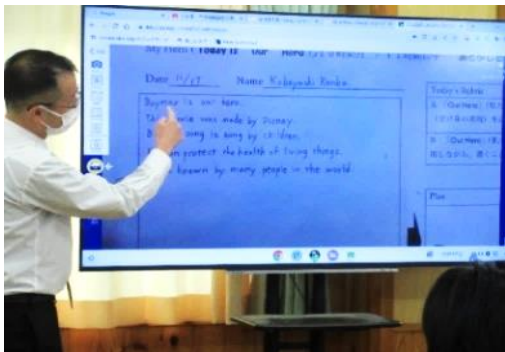


図21 各グループの書いた文章を全体で共有している様子

8 ○作成した文章の発表を行わせ、板書することで、他の班の作成した文章の工夫点などを全体で共有できるようにした。

それぞれのグループの文章を全体で共有したことで、他のグループの文章のよい点や工夫点を学ぶことができた。

5. グループでの意見交換、全体での共有での学びを生かし、本時で始めに書いた人物について、もう一度文章を作成する。

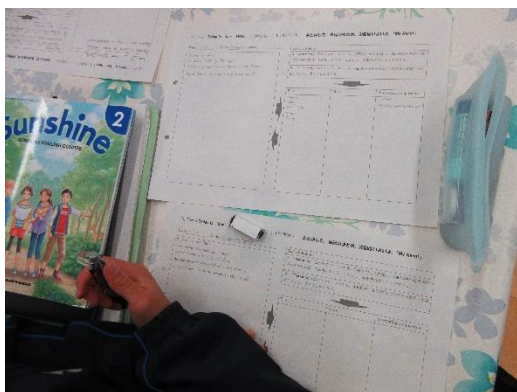


図22 1回目と2回目の作成した文章を比較しながら文章を作成している様子

5 ○グループでの学びの時に作成したワークシート (PMIチャート、ルーブリック型) や全体での学びを生かすことで、主語や動詞の種類、接続詞や疑問文の使い方、文章の構成順序などに工夫をしながら文章が作成できるようにした。

本時の始めと同じ人物について、もう一度文章を作成したことで、学習する前と後の自分の文章の変化に気付くことができた。

<p>6. 今日の活動の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプレッドシートに本時の振り返りを記入する。</li> <li>・ルーブリックに本時の活動の自己評価を行う。</li> </ul>	5	<p>○ルーブリックのAとBを示したスプレッドシートを活用した振り返りを行うことで、本時のめあてに関連した振り返りが行えるようにした。</p> <p>○スプレッドシートに振り返りを記入することで、他の人の振り返りも見られるようにした。</p>
--	---	---

【評価項目】(思考・判断・表現) ○おおむね満足  
 ○自分が興味のある人物について、話題の中心を意識し、(be動詞+過去分詞)(受け身の表現)を活用しながら、詳しく、効果的に書くことができたか。(観察、ワークシート)  
 ※詳しく→動詞の種類や5W1Hが多く使われている。  
 ※効果的に→話題の中心を変え、読みやすく、読み手を意識した文章を作成している。

## 6. 成果と課題

### (1) 成果

#### 【手立て1】

- ・毎回の授業でスプレッドシートでのルーブリックをいつでも見られるようにすることで、生徒は単元を通した目標や内容について理解し、見通しをもって学習に取り組むことができた。また、単元の中間や学習活動の中盤でルーブリックの評価についてふれたり、他の生徒の評価を見たりすることで、目指す姿に向かって、自ら学習を修正する様子が見られた。

ルーブリックの振り返りとMy One sentence		
単元のゴール 自分の興味のある人物を「My Hero」に、よ		
	1時間目	2時間目
主となる技能	書く(試しの活動)	書く
Rubic A	既習の表現を活用し、「My Hero」について文章を作成しようとしている。	ワークシートに、受け身の表現について正しい語順で書くことができる。
Rubic B	自分の知っている表現から「My Hero」について文章を作成しようとしている。	ワークシートに、受け身の表現について間違えながらも書くことができる。
生徒A	B「My Hero」で自分の好きなYoutuberについて受け身の表現を使って書くことができました。	B 能動形から受身形に変えることができた。byを入れ忘れることがあるから気をつけたい。過去分詞もちゃんと覚えたい。
one sentence	First, second, third 使っている人が参考になった。	P.E. is enjoyed by student.

図23 ルーブリックの提示と振り返り

#### 【手立て2】

- ・PMIチャートを使い、P (plus よかった点)、M (more もっとよくするには)、I (interesting 面白い点、工夫した点)を提示することで、生徒は視点をもって意見交流する様子が見られた。
- ・文章作成シート、思考ツール、ルーブリックの3つを1枚のワークシートにすることで、生徒は自らの思考の流れを捉えることができた。また、グループでの話合いの後に、同じワークシートを再配布し、もう一度書かせることで、自らの思考の変化を捉えさせることができた。

My Hero (Today is "Our" Hero) 10時間目 / 11時間目中 あと少しで、単元のまとめ。次回はいよいよ、「My Hero!」

Date 11/17 Name \_\_\_\_\_

Baymax is our hero.  
 He was made by Mr. Tadashi.  
 He can protect the health of living things.  
 He is known to many people in the world.

Today's Rubric

A 「Our Hero」(私たちのヒーロー)を、話題の中心を意識し、<be 動詞+過去分詞>(受け身の表現)を活用しながら、くわしく、効果的に書くことができる。

B 「Our Hero」(私たちのヒーロー)を、<be 動詞+過去分詞>(受け身の表現)を活用しながら、書くことができる。

Plus	More	Interesting, or question
<ul style="list-style-type: none"> <li>· movie</li> <li>· song</li> <li>· Mr. Tadashi</li> <li>· famous</li> <li>· Disney</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>· protect</li> <li>· sung by around the world</li> </ul>

図 2 4 個人で作成した文章と、他の生徒の様子をPMIシートに記入した様子。



My Hero (Today is "Our" Hero) 10時間目 / 11時間目中 あと少しで、単元のまとめ。次回はいよいよ、「My Hero!」

Date 11/17 Name \_\_\_\_\_

Baymax is our hero.  
<sup>His</sup> This movie was made by Disney.  
 He is loved by many children.  
 He can <sup>help keep living things healthy.</sup> protect the health of living things.  
 He is known to many people <sup>around</sup> in the world.  
 Disneyland has a Baymax ride.  
 Riding <sup>it</sup> makes me happy.

Today's Rubric

A 「Our Hero」(私たちのヒーロー)を、話題の中心を意識し、<be 動詞+過去分詞>(受け身の表現)を活用しながら、くわしく、効果的に書くことができる。

B 「Our Hero」(私たちのヒーロー)を、<be 動詞+過去分詞>(受け身の表現)を活用しながら、書くことができる。

Plus	More	Interesting, or question

図 2 5 PMIシートを参考にして、もう一度構成し直した後の文章。

## (2) 課題

### 【手立て1】

- ・ルーブリックのABC評価の規準の分かりやすさ、また、生徒がよりよい評価になるための手立ての工夫（ヒントカード、巡視での助言、資料の提示、視点の提示等）が足りなかった。

### 【手立て2】

- ・PMIチャートでの（よい、さらによくする、面白い）の定義が曖昧で、どう記述したらよいか迷っている生徒もいた。また、生徒が色々な思考ツールを使いこなせるようにしたり、目的に応じて思考ツールを選択できたりするような指導の工夫を考える必要がある。